

2024年9月17日

株式会社三菱UFJ銀行

Project Agoráへの参画について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下 当行）は、Project Agorá（プロジェクト アゴラ、以下 本プロジェクト）に参画いたします。

本プロジェクトは、国際決済銀行（Bank for International Settlements、以下 BIS）、各国の中央銀行、国際金融協会（Institute of International Finance、以下 IIF）によって立ち上げられ、今般、当行を含む民間金融機関と合同でトークン化されたホールセール（中央銀行及び民間金融機関の間での決済）・クロスボーダー決済の検討などを実施する予定です。

7つの中央銀行（フランス銀行（ユーロシステムの代表）、日本銀行、韓国銀行、メキシコ銀行、スイス国立銀行、イングランド銀行、ニューヨーク連邦準備銀行）と民間金融機関が協働するものであり、中央銀行はBISが、民間金融機関はIIFが取りまとめを担います。

BISが提唱する統合台帳（Unified Ledger）のコンセプトに基づき、中央銀行と民間金融機関が共同で金融プラットフォームを利用し、トークン化された中央銀行マネーと商業銀行預金をシームレスに取引する方法を検討いたします。本プロジェクトを通じて、中央銀行マネーと商業銀行預金の二層構造を維持したまま、金融システムの機能強化とスマートコントラクト及びプログラマビリティを活用した新しい機能の提供を目指します。

本プロジェクトは、現状のクロスボーダー決済の課題解決・効率性向上を目指しています。現在のクロスボーダー決済には、国や地域毎の法律や規制の相違、技術的課題、営業時間や時差等の課題があることに加え、1つの送金に関係する複数の金融機関が類似の手続き（AML、本人確認等）をそれぞれ実施するなど、手続きの複雑さに関する課題を抱えています。

当行は、本プロジェクトへの参画を通じて、クロスボーダー決済の課題解決に寄与すると共に、お客様により利便性の高いサービスを提供できるよう取り組みを継続して参ります。

以 上